

## 「出題の意図」

選抜区分	2022年度（選抜区分：一般選抜 前期日程） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：課題論文）
出題の意図 （評価のポイント）	<p><b>1. 課題論文における出題の背景と求める能力</b></p> <p>2021年度一般選抜試験の課題論文と同様に、次の三つの点、すなわち（1）地域創生やまちづくりを考えるうえで重要な示唆を有する文章であること、（2）地域創生学群が学生に育てたいと考えている能力について関連する内容を有していること、（3）一般的かつ平易な文章であること、を出題文の選定基準とした。その結果、石山恒貴による『週刊エコノミスト』の記事「生き方充実させる「第3の場所」」を出題文とした。</p> <p>設問は、「以下の文章を読み、筆者の主張を簡潔にまとめたうえで「サードプレイス」の存在が社会に与える効果および課題としてあなたが考えることを述べなさい。分量は全体で400字以内とする。」とした。</p> <p>設問の意図は、本文の内容および設問の指示をしっかりと把握する読解力を持っているか、また、それをもとに自分の考えを論理立てて記述する能力を持っているかを見ることにある。加えて、正しい日本語を使うことができるか、一定の語彙力を有しているかも評価のポイントとした。</p> <p><b>2. 解説</b></p> <p>この文章は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う社会状況を踏まえ、人びとの生き方や暮らし方をより充実したものに変え得る「サードプレイス」の概念について解説するとともに、社会貢献、地域貢献などの目的が存在し自発的に人々が集まる「目的交流型」のサードプレイスに着目し、その可能性について論じている。</p> <p>解答の冒頭では、筆者の主張を簡潔にまとめることが求められる。その後、そのまとめた内容を踏まえて、目的交流型を中心としたサードプレイスが社会に与える「効果」と「課題」の双方を自らの意見として述べていくことが求められる。まとめ部分的確性、自身の意見の論理性の高い解答に対して高い評価を与えている。</p>

## 「出題の意図」

選抜区分	2022年度（選抜区分：一般選抜 前期日程） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：集団討論）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>一般選抜入試では、地域社会の諸問題に強い関心を示し、探究心を持つ学生を求めている。集団討論では、求められている課題を的確に理解し、それに応じて自分の考えを明確に表現できること、地域の方々と協働していくための基本的なコミュニケーション能力を有していること、地域創生の担い手としての使命感をもち、課題に対して主体的かつ積極的に関わろうとしていること等が重要になる。したがって評価のポイントもこれらの点に置かれている。</p> <p>前年の2021年度一般選抜入試においては志願者に対し事前に集団討論課題を提示したが、今回の2022年度一般選抜入試においては志願者が面接室に入室後に集団討論課題（全グループ同一）を提示する方式とした。</p> <p>課題の内容は、『「地域を創る」とは、地域の中に何を創り出すことだと思いますか。討論し、結果をまとめてください。』とし、グループで討論することを求めた。</p> <p>出題の意図としては、上記評価ポイントに加え、「地域」や「地域創生」に対しどのような認識を有しているか、また、それに対する自らの考えを他者との積極的な議論を通じて深めつつ、議論のとりまとめに協働して貢献することができるか、ということを見定めるところにあった。</p>